

二六七五番

君きみが着きる 三笠みかさの山やまに 居ゐる雲くもの 立たてば継つがる
る 恋こひもするかも

二六七六番

ひさかたの 天飛あまとぶ雲くもに ありてしか 君きみを相見あひみ
む おつる日ひなしに

二六七七番

佐保さほの内うちゆ あらしの風かぜの 吹ふきぬれば 帰かへりは
知しらに 嘆なげく夜よそ多おほき

二六七八番

はしきやし 吹ふかぬ風故かぜゆゑ 玉たまくしげ 開あけてさ寝ね
にし 我われそ悔くやしき